

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 9 月 6 日現在

機関番号：32809

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26463357

研究課題名(和文)がん医療におけるコミュニケーション教育プログラムの開発と評価

研究課題名(英文)Development and evaluation of Nursing Educational Program for Communication

研究代表者

金子 真理子(KANEKO, MARIKO)

東京医療保健大学・看護学部・教授

研究者番号：50318151

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：研究：本研究の目的は、がん医療における精神心理面および倫理面に関する知識、アセスメント、対応および看護師自身のストレスマネジメントに関する看護教育プログラムを作成し、評価することである。看護師540名のインターネット調査をもとにプログラムを開発し、看護師28名に実施、修正の後、看護師20名に実施し、効果の確認を行った。精神心理面、倫理、コミュニケーション、看護師のストレスマネジメントに関する10時間のプログラムを開発した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop and evaluate nursing education programs on knowledge, assessment, response, and nurse's own stress management on psychological and ethical aspects in cancer care. We developed a program based on the Internet survey of 540 nurses, implemented and corrected 28 nurses and carried out to 20 nurses and confirmed the effect. We developed a 10-hour program on psychological aspects, ethics, communication, and stress management of nurses.

研究分野：精神看護

キーワード：教育プログラム コミュニケーション がん医療 サイコオンコロジー 精神心理面 アセスメント

### 1. 研究開始当初の背景

サイコオンコロジー分野における、精神心理面のアセスメントと対応、看護師自身のストレスマネジメントについては、標準化された教育プログラムについては研究段階にあり、サイコオンコロジー分野における全人的ケアを提供するためには、精神心理面に関する視点を盛り込んだ教育プログラムの開発が必要である。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、精神心理面のアセスメントと対応、看護師自身のストレスマネジメントに関する教育プログラムの作成と評価を行うことである。

### 3. 研究の方法

26年度空 29年度の方法の概要：

本プログラムの作成にあたり、がん看護に携わる看護師 782 名(有効回答 520)を対象に、精神心理面のアセスメントと対応、コミュニケーションに関する現状調査を行った。その結果をもとに、がん患者の精神心理面のアセスメントと対応、コミュニケーション方法、倫理調整法、看護師自身のメンタルヘルスに関する教育プログラムを作成し、がん看護経験のある看護師 28 名を対象に予備調査を実施し、その後、重点的に教育を行う必要のある項目を絞り、プログラムの修正を行った後、別の看護師 20 名を対象に教育プログラムを実施し、直前・直後、3 か月後の評価を行った。

#### A. 平成26 年度の研究

がん医療におけるコミュニケーションの現状と課題を検討するためインターネットによるアンケート調査、がん看護専門看護師らを対象にがん医療におけるコミュニケーションおよびがん患者指導管理の現状と課題についてインタビューを行った。

- 1) インターネット調査におけるプログラム内容の抽出: インターネット調査においては、看護師782 名にがん患者の精神心理面のアセスメントと対応、倫理調整、コミュニケーション法についての知識と自己効力感について調査を行った。
- 2) フォーカスグループ・インタビューによるプログラム内容の検討: がん看護専門看護師2 名・精神看護専門看護師1 名を対象としたフォーカスグループ・インタビューを行った。

#### 26年度の成果

- 1) インターネット調査の結果  
がん看護における精神心理面のアセスメントの現状及び課題を抽出した。調査の結果から、精神心理面のアセスメントについては十分でないことが明らかとなり、教育プログラムの内容が抽出された。

- 2) フォーカスグループ・インタビューによるプログラム内容の結果：

病棟で中堅となる看護師に対する精神心理面のアセスメントに関する現任教育や患者、医療者間のコミュニケーションが十分でないことが示唆され、教育プログラムの内容や方法について基盤となる重要なデータが抽出できた。

- 3) プログラムの作成にあたりがん看護に携わる看護師570 名を対象とした現状調査の詳細については既に掲載済みの論文を参照されたい<sup>1)</sup>。

#### B. 平成27 年度：予備調査の実施と評価

方法：

- 1) 調査期間: 2016 年10 月～2017 年1 月であった。

#### 2) 教育プログラムの実施と評価

教育プログラムと評価方法について、現状調査をもとに、教育プログラムの内容を抽出し、第1 段階として看護師28 名を対象に5 時間の教育プログラムを実施した。

#### C 平成 27 年度の成果：

- 1) プログラムの評価方法について、看護師の知識と対応の自己効力感について4 段階のリッカーとスケールによる自記式アンケートにて調査した。アンケート項目は、<がん患者の心理面>に関する9 項目、<精神状態>に関する9 項目、<看護におけるコミュニケーション>における2 項目、<意思決定支援>に関する2 項目、<看護師自身のストレスマネジメント>に関する2 項目であった。

#### D. 平成28 年～29年度の方法

方法: 修正プログラムの実施と評価: 第1 段階の調査後、修正プログラムの内容を吟味しながら作成した。

#### 4. プログラムの開発に関する成果

修正点は、プログラムの効果が十分に得られず、病棟看護師が遭遇する機会が少ない遺族ケアに関する項目については削除したこと、看護師自身のストレスマネジメントに関するニーズに応じて、ストレスマネジメントの方法として認知行動療法の考え方とストレス対処を追加した。看護系の研修事業を行う業者と共催し、インターネットから応募した28 名の看護師を対象に2 日間10 時間のプログラムを受講してもらい、直前、直後、3 か月後に知識と対応に関する自己効力感を測定した。意思決定支援以外はプログラム直後で統計的に有意な差が認められ、3 か月後にも効果が継続していた。看護師自身のストレスマネジメント

の知識については、直前 直後では有意差が見られたが、直後と3か月後でも有意な差が認められた。調査の概要については既に論文として掲載済み<sup>2)</sup>である。

これまでの調査結果をもとに、がん医療における精神心理面の教育プログラムを開発した。本プログラムの内容は、がん患者の精神心理面、倫理、コミュニケーションおよび看護師自身のストレスマネジメントと認知行動療法に関する10 時間の教育プログラムである。

・本プログラムの到達度と内容： プログラムの到達度と内容（表 1）及び本プログラムの内容（表 2）を下記に示す。

**表1．プログラムの到達度と内容**

・精神状態のアセスメントと他職種連携

- 1)がん患者の適応障害の可能性についてアセスメントし専門家との連携が必要な判断ができる
- 2)がん患者の抑うつの可能性についてアセスメントし専門家との連携が必要な判断ができる
- 3)がん患者のせん妄についてアセスメントし専門家との連携が必要な判断ができる
- 4)自殺念慮のあるがん患者について他職種連携を含め対応できる

\* 事例検討を含む

・心理面のアセスメントと多職種連携

- 1)病名告知や再発、転移を告知され危機状態にあるがん患者・家族の心理面の介入について必要に応じて多職種連携を含め介入できる。
- 2)がん患者の不安についてアセスメントし、対応できる
- 3)怒りのあるがん患者について怒りの背景を理解し、必要時、他職種連携を含め対応できる
- 4)親ががんの子どもに対する病気の伝え方について、必要時他職種連携を含め対応できる

\* 事例検討を含む

・コミュニケーション

- 1)共感したことをフィードバックし、患者とのラポール形成ができる

2)コミュニケーション時の場の設定や情報提供の際、患者が何をどこまで知りたいのかについて把握し対応できる。

3)家族の状況についてコミュニケーションを通じてアセスメントし対応できる

\*ロールプレイを含む

・意思決定支援

- 1)治療や鎮静、どのように最期を過ごしたいのか等について、本人と周囲との間で倫理的な葛藤が生じた場合、あるいは患者、家族、医療者で価値の対立がある場合、他職種連携を含め倫理原則の考え方を基盤として対応できる。

\*事例検討を含む

・看護師自身のストレスマネジメント

- 1)オンコロジー領域における看護師のストレスについて説明できる
- 2)認知行動療法の考え方について説明できる
- 3)認知再構成法と問題解決療法のついて、シートをもとにストレス対処について説明できる

**表2．本プログラムの内容**

1．がん患者の精神心理面のアセスメントを困難にする要因

2．不安 抑うつ せん妄 怒りのアセスメントと対応

1)医学問題と看護問題の区別： 精神症状のアセスメント：適応障害、抑うつ、せん妄、アカシジア・心理面のアセスメント：危機的状況の理解と看護モデル、不安のアセスメント、怒りのアセスメント

3. 医療におけるコミュニケーション

4. 意思決定支援・倫理調整の支援

5．認知行動療法の理解と活用： ・認知行動療法について・問題解決療法を用いたがん患者へのアプローチ方法

6．メンタルケア実践の幅を広げる：リラクゼーションの知識と技術・リラクゼーション演習・マインドフルネスの知識と技術

7. 認知行動療法を用いたストレスマネジメント演習：（認知再構成法、問題解決技法）  
 8. 看護師のストレスマネジメント：看護師自身のストレスマネジメントの知識と対処～燃え尽きないための職種連携

#### 26年度空 29年度の成果の概要

プログラムの直前、直後、3 か月後の知識や対応においてプログラム効果の継続が認められた。がん医療の質の向上に向け、身体面のケアだけではなく、精神心理的な面のアセスメントと対応について看護師の知識と対応の質を均てん化し、全人的なケアを提供できるような現認教育を実施していくことが重要である。

#### 5. 本研究の限界と課題

本プログラムの開発は、自発的に調査やプログラムに参加をした主体的な対象者であった。今後は、施設単位で教育プログラムを実施し、施設の規模や急性期やホスピスなどの特性に応じて、強化すべき内容を選別し、サイコオンコロジー領域における看護教育の質の向上に向けた取り組みが課題である。

#### 引用文献

1) Mariko Kaneko, Ryu Shuhei, Miki koyama, Ryoko Kakehi (2015). Perspectives and Challenges in the Psychological Care of Cancer Patients and in Stress Management for Oncology Nurses: an Online Survey among Japanese Nurses, International Archives of Nursing and Health Care, Vol2 (1), ISSN:2469-5823, 2016.

2) Mariko Kaneko(2017), Significance of a Nursing Program for Mental Health Assessment and Psychological Care of Cancer Patients.JOJ Nurse Health Care 1(4): JOJNHC.MS.ID.555567

5. 主な発表論文等  
 （研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1) Mariko Kaneko(2017), Significance of a Nursing Program for Mental Health Assessment and Psychological Care of Cancer Patients.JOJ Nurse Health Care 1(4): JOJNHC.MS.ID.555567 2)

2) Mariko Kaneko(2016), Ryu Shuhei, Miki koyama, Ryoko Kakehi (2015). Perspectives and Challenges in the Psychological Care of Cancer Patients and in Stress Management for Oncology Nurses: an Online Survey among Japanese Nurses, International Archives of Nursing and Health Care, Vol2 (1), ISSN:2469-5823.

〔学会発表〕(計 6 件)

1) 金子真理子, 医療従事者のバーンアウト, ワークエンゲイジメント, 第22 回日本緩和医療学会教育講演シンポジスト, 平成29年6月24日, 横浜.

2) 金子真理子, 秋山美紀, サイコオンコロジー領域における教育プログラムの有効性の検討, 第36 回日本看護科学学会学術集会, 2016年12月10日, 東京.

3) 金子真理子, 柳修平, 小山美樹. がん看護における心理面の対応および看護師自身のストレスマネジメントに関する認識と課題. 第34 回日本看護科学学会学術集会, 2015年12月6日, 広島.

4) 金子真理子, コミュニケーション技術はスタッフ間に応用できるか. 第56 回日本肺癌学会シンポジウム・シンポジスト, 2015年11月27日, 横浜.

5) 金子真理子, 小川朝生, 小山美樹, 佐々木千幸. がん患者の精神心理面のアセスメントとコミュニケーションに関する看護師の認識. 日本サイコオンコロジー学会2015年9月18日, 広島.

6) 岡田佳詠, 金子真理子, ストレスを吹きとばそう, ナースのための認知療法活用術. 第34 回日本看護科学学会学術集会交流集会, 2015年12月5日, 広島.

〔図書〕(計 0 件)

〔その他〕  
 ホームページ等 なし

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者  
金子真理子 (Mariko Kaneko)  
 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部・

教授

研究者番号：50318151

(2)研究分担者

小川朝生 (Asao Ogawa )

独立行政法人国立がん研究センター・東病院

精神腫瘍学開発部・医師

研究者番号：10466196